

研究発表タイトル：

使役移動構文における構成要素の意味合成と構文スキーマによるカテゴリー化

<要旨>

本研究では、英語の使役移動構文に生起する動詞と前置詞の意味とその意味合成に基づいて、同構文のカテゴリー構造と構文スキーマによるカテゴリー化を記述する。本研究の分析によって、構文スキーマのカテゴリー化のメカニズムの詳細が明らかになり、Goldberg(1995: ch.7)で提示された同構文の規定と解釈上の矯正(coercion)をより緻密に再規定することが可能になる。

Goldberg(1995)では、使役移動構文は次のように規定される。(V は非状態動詞で、OBL は方向を表す前置詞句が入る。)

- (1) [SUBJ [V OBJ OBL]] (Goldberg 1995: 152)

ただし、OBL には場所を表す前置詞句も生起することがあるため、場所を表す前置詞は、解釈上の矯正を経て、方向を表す解釈をもつように矯正されると規定される。

しかし、上述の規定を満たしていても、文全体の容認度が上がらない事例が存在する。

- (2) a. ??Emma sneezed the napkin on the table.
b. ??They laughed the poor guy inside the room.

したがって、Goldberg (1995: ch.7)による規定を再考する必要がある。

本研究では、同構文の構成要素である動詞と前置詞の意味合成に基づいて、同構文のカテゴリー構造を記述することによって、(2)の容認度の揺れを説明する。まず、動詞の前置詞の意味と用法に基づいて、同構文を 4 つの下位構文に分類する。

- (3) 動詞の分類
a. 目的語の移動を含意する動詞：移動動詞
b. 目的語の移動を含意しない動詞：非移動動詞
(4) 前置詞の分類
a. 移動を含意する前置詞：移動前置詞
b. 移動を含意しないが場所や位置を表す前置詞：非移動前置詞
(5) 動詞と前置詞の意味合成
a. 移動動詞＋移動前置詞
Mary threw the ball into the box.

- b. 移動動詞＋非移動動詞

Mary threw the ball inside the car.

- c. 非移動動詞＋移動前置詞

Mary helped him into the house.

- d. 非移動動詞＋非移動前置詞

#Mary helped him inside the house.

(5a-c)に分類される構文は使役移動構文として認可(sanction)されるが、(5d)に分類される構文は同構文としては認可されないことが多く、文全体の容認度が下がることが多い。

使役移動構文を(5a-d)の 4 つの下位構文に分類することによって、(2)で容認度が低くなっている構文は、(5d)に分類される構文で、動詞と前置詞のどちらも移動の意味を含意していないため、使役移動構文スキーマにカテゴリー化されにくく、文全体の容認度が低くなっていることがわかる。また、(5)の分類により、場所を表す前置詞句が使役移動構文に生起できるのは、共起する動詞が移動の意味を含意している場合に限られることがわかる。したがって、移動の意味を含意する動詞と共起することによって、場所を表す前置詞句は構文スキーマによって方向を表す前置詞句へとカテゴリー化(矯正, Goldberg 1995: 159)されると考えられる。以上から、構文スキーマによる事例のカテゴリー化には、動詞と前置詞の意味合成が重要な役割を果たしていることがわかる。

さらに、前置詞句を前置させる統語テストを行うと、(5a-d)の前置詞句の機能が構文によって異なることが明らかになる。

- (6) a. Into the room he ran, quick as lightning. (Goldberg 1995.: 158)
b. *Inside the room he ran, quick as lighting. (ibid.: 158)
c. Into the car, Joe helped his son.
d. #In the car, Joe helped his son.

(5a-d)の下位構文の前置詞句を、概念構造に基づく補部と修飾部の規定(Langacker 2008: 204)に従って分析すると、次のことがわかる。

- (7) a. (5a, c, d)の構文の前置詞句は修飾部である。
b. (5b)の構文の前置詞句は補部である。
c. ただし、前置詞句を必須とする動詞(smile, laugh, sneeze, coughが生起する構文)が生起する場合、前置詞句は統語的に補部となる。

以上から、使役移動構文は次のように再規定される。

(8) a. [SUBJ [V₁ OBJ PP₁]]

b. [SUBJ [V₂ OBJ PP₂]]

V₁: 移動動詞または非移動動詞

V₂: 移動動詞

PP₁: 移動前置詞による前置詞句（方向を表す前置詞句）

PP₂: 非移動前置詞による前置詞句（場所を表す前置詞句）

本研究により、構文スキーマの記述には構成要素の意味と意味合成の分析 (Langacker 2009) が欠かせないことが示されるであろう。

< 主要参考文献 >

Goldberg, Adele. (1995) *Constructions: A Construction Grammar Approach to Argument Structure*. Chicago/London: University of Chicago Press.

Langacker, Ronald. (2005) Integration, Grammaticization, and Constructional Meaning. In Fried, Mirjam and Hans C. Boas (eds.), *Grammatical Constructions: Back to the Roots*, pp.157-189. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.

Langacker, Ronald. (2008) *Cognitive Grammar*. Oxford: Oxford University Press.

Langacker, Ronald. (2009) "Constructions and Constructional Meaning". In Evans, Vyvyan and Stéphanie Pourcel (eds.), *New Directions in Cognitive Linguistics*, pp.225-267. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.